

審 議 会 等 の 会 議 結 果 報 告 書

		課所名	企画政策課
会議名	令和3年度 第1回 諏訪市行政改革推進委員会		
開催日時	令和3年11月8日(月) 午前10時～11時45分		
出席者	佐久会長、小池職務代理、飯島委員、岩波委員、大島委員、清澤委員、高野委員、 中嶋委員、西田委員、宮下委員、山村委員 以上 11 名 金子市長、前田企画部長、寺島企画政策課長、武居スマート化推進係長、平林スマート化推進係 主査、今井スマート化推進係主任 (欠席委員)有賀委員、二宮委員、矢島委員		
資料	・資料 No.1 第六次行政改革大綱の進捗状況 ・資料 No.2 令和3年度 外部評価結果 ・資料 No.3 公共施設等総合管理計画の進捗状況 ・資料 No.4 諏訪市外部評価委員会設置要綱・過去3年の評価事業 ・資料 No.5 業務スマート化プロジェクト		
協議議題(内容)及び会議結果(要旨)			
<p>1. 開 会(進行:企画政策課長)</p> <p>2. 委嘱状交付</p> <p>3. 市長あいさつ(金子市長)</p> <p>みなさんおはようございます。</p> <p>昨日立冬を迎え世の中は冬に入ってきますが、新型コロナウイルス感染症はここ 2 年間で社会全体が社会活動また経済活動に大きな支障があります。ワクチンの効果もあるでしょうが、市民の皆様一人一人がマスクやディスタンスなど、基本的なニューノーマルの生活スタイルをしっかりと遂行してきていただいている成果と心から感謝申し上げます。ありがとうございます。令和3年度第1回諏訪市行政改革推進委員会は、今年度の初回ということになります。行政改革推進委員会の皆様にご指導をいただきながら諏訪市の行革を一步一步進めてきている最中でございます。</p> <p>そうした中で、この場でお詫びを申し上げなければならないことがありまして、本年度2回、職員の職務怠慢による不祥事がありました。本当に行政として市民に対しての信頼を失うことが一番厳しいことであるため、監督責任を負う私も痛感をいたしております。委員の皆様に対しましてもこの場をお借りしてお詫びを申し上げたいと思います。申し訳ございませんでした。</p> <p>諏訪市役所の職員も昔より減少しており、今年度は4月当初スタート時点で473人になっております。工夫をしながら効率の良い行政を進めておると同時に、DX、RPA というような技術革新もしっかりと取り込み、成果も上がってきていると認識をしているところです。時代の変革期にありまして、様々な課題が見えてくることと思っておりますが、委員の皆様にはそれぞれの専門的な立場から、忌憚のないご意見をお寄せいただきまして、より良い行政を作っていけたらと思っておりますので、会長をはじめどうぞご指導のほどよろしくお願いを申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。</p>			

4. 会長・職務代理あいさつ

(会長)

みなさんこんにちは。前回の委員会のときにこの行革というのは、その変革ではなく脱皮だということを、市長がおっしゃいました。その言葉は大変印象に残っており、色や形が変わるのではなく、完全に脱皮をしなければならぬ時代に入っているのだということを感じました。やはり行革は市としても痛みを伴うお仕事をしなければなりません、やはり私達市民が、それをどういうふうな後押しをするかということも大変重要になってくると思っております。この行革の第6次総合計画も含めて、そんな話を行革推進委員会で進めてまいりたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

また、このマイクを通して話をすると、これが文章になる最新の機材を使っているようで、マスクもありますが物事をはっきりとおっしゃっていただき、スムーズな進行をお願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

5. 議 事(議長:会長)

・報告事項

(1)行政改革推進委員について

(事務局説明)

—質問・意見等なく、一同了承を得る—

(2)第六次行政改革大綱の進捗状況について(資料No.1)

(事務局説明)

—質問・意見等なく、一同了承を得る—

(3)令和3年度 外部評価結果について(資料No.2)

(事務局説明)

—質問・意見等なく、一同了承を得る—

(4)諏訪市公共施設等総合管理計画の進捗状況について(資料No.3)

(事務局説明)

<質問・意見等>

(委員)11 ページに令和2年度の実施事業等、令和3年度の実施事業が載っているが、令和元年にすわっチャオが新たに建てられた。そういった面積が増えた上で、令和2年と令和3年のこういう事業があったということなのか。

(事務局)すわっチャオを含め、増加した施設と減少した施設全て合わせて令和3年度でマイナス5.8%ということになっている。

(委員)9 ページの40年間の期間で不足は29億円ということだが、人口減少すると、さらに不足が増えていってしまうのではないかと。また、例えば平成29年で60数億円ぐらい不足が29億円。その時できなかったものはどんどん累積されて増えていくのではないかと。

(事務局)人口減少については40年間での見込みを立て、さらに市税の見込みを計算した上で不足が29億円ということ想定している。40年よりも先などであればもっと減収の可能性はあると思われる。

更新する施設が増えてくるのではないかとという話は、個別施設計画のなかで集約化させたり維持管理したりするよりも除却した方がいい場合もあるため、どれくらいの見込みがあるかはお答えできず申し訳ないが、計画

通り進めていけば効果は上がると見込んでいる。

(委員) 例えば今年 29 億円不足となったときに、やらなきゃいけない分が来年にプラスされてくるのではないか。

(事務局) 平成 29 年のときに試算をしたが、不足分は国から起債という有利な借金をする形をとりながら実施している。市の財源だけでやるのは難しい所もあり、活用しているが、26 億円をすべて充てられるかという、必ずしもそうではないため、先送りしているところはあるためご理解いただきたい。

(委員) 毎年 29 億円が積み上がるとなると、29 億円×40 年間のギャップになるということではないのか。

(委員) 今ある公共建築物を、例えば施設をあと何年で建て替える、また他の施設がもう 40 年目になるから建て替えるって費用を合計していくとこういう数字になるということであって、実際にはやらない、あるいは本当は改修する必要があっても改修しないなど、そういうロジックだと思うがどうか。

(事務局) 単純更新すると、30 年で大規模改修したり耐用年数で更新するとなると 9 ページ下のような形になるが、多少の老朽があっても使っていたり、計画により最低限の費用をかけて継続して使っていただくようなことをして、不足分に対処している。

(委員) 現在 5 年目であるということだが、あと 5 年をやるにあたっての事務局としての課題はなにか。

(事務局) 今後 5 年間の課題については、起債などが今後も続いていくかが一つ、また、大きな施設の更新や改修などが増えていくため、令和 8 年度までの計画で実行できるかということで一つ課題が挙げられる。

(委員) 財源については国などの援助をいただくという形の理解でよいのか。

(事務局) その通り。大きい解体費用などは市の財源だけでは厳しいところがあるため、国の財源と起債のメニューを使ってやるのが前提になってくると思う。今のところは起債のメニューも今年度までの期限になっているが、おそらく延長されると言われているため、活用していきたいと考えている。

また、課題をもう一つ挙げさせていただくが、公共施設の見直しというのは市民にとって大きな影響がある。財源や将来性の話をすると総論としてはご理解いただけると思うが、いざ自分の使っている施設や自分の身近な地域のところの見直しとなると、難しいところもあると感じる。そういう公共施設のあり方を考えていただくことが必要ということが課題としてある。

(委員) 市税の収入が今後の見通しとして減っていくということだが、人口減少以外にも働きたくても働けない人も増えているというのも実情としてあるような気がする。平成 27 年に障がい者差別解消法が施行されてから、公立高校などに特性を持った子供たちが進学できる可能性が広がった。しかし社会に出るとやはり理解が薄くなってしまふ。そこで離職してしまうケースがあり、働きたくても働けない子供たちが増えている。そういう実情があることを共有したい。

(委員) 社会福祉協議会にも仕事を見つけないという人が来るが、企業側では労働力が不足していると言われており矛盾しているところがあると感じる。本当に困っている方々には給付など国など政策をいただきたいと思っている。

(委員) 特性をもったお子さんたちの就労についての話は確かに厳しい。特性を持っていなくても特定の人たちの中でしか話ができない方もいたり、大人でも離職して鬱など精神的な問題で就労していない方もいたりする。6市町村をみると諏訪市は恵まれている。今まで特性を持っている方は就職する訓練ができていない。人と話す訓練というのは難しい。就労移行支援事務所 Mirai は特に職場体験で事務のパソコンや建設業などをして、自分に合ったものを選ぶようにできている。みなさんサポートをしているので、連携を取りながらやっていけたらと思う。行政が企業を後押しし、企業が就労者を後押しできれば。高校生だと学校主体で就職先を探すとは思いますが、いろんなところに相談していただくといいのかなと思う。

(委員) 福祉的なものから見たところは本当に素晴らしいし、恵まれているなと思っているが、本人たちの能力として理解さえしてもらえれば一緒に過ごせる。理解があればいいのに、福祉の力を借りないと生きていけない、働けないようなところがあるので、グレーゾーンという子どもたちの働き方も変えていけたら税収に結びつくのではないかと思います。

(委員) 今、有効求人倍率が 1.21 だが、正規の求人は実はほとんどなく、ほとんどが非正規雇用で 1.21 という数字になっていると言われる。企業もプロフェッショナルを要望していて、そういう人の応募がなかなかないことから人を求めているということが本当の実態ではないかと思う。非正規雇用がうまくマッチングすれば流れができてくるかと思う。

(会長) 全国的には IT 企業が増えてきて、そういう分野に若い人たちが就労しているという話がある。それにより普通の企業に人が回ってこないということもあるよう。

—以上質問・意見等なく、一同了承を得る—

・協議事項

(1) 令和2年度 外部評価委員の選任について(資料No.4)

(今井スマート化推進係主任説明)

<質問・意見等>

(会長) 事務局には腹案もありますが、立候補はありますか。ないということで事務局より腹案をお願いします。

(事務局) 学識経験者・各種団体を代表する人ということで、腹案を申し上げさせていただきたいと思います。飯島委員、岩波委員、清澤委員、小池委員、高野委員、西田委員、宮下委員、山村委員の以上8名の皆様に外部評価委員会をお願いしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。(異議なし)

—以上、質問・意見等なく、一同了承を得る—

(2) 業務スマート化プロジェクトについて(資料No.5)

(平林スマート化推進主査説明)

<質問・意見等>

(委員) 2ページの2040年ころの社会情勢で10%、20%をイメージしている中で、職員数は10%減の485人と推定されているが表記の誤りか。

(事務局) 文章校正時の誤り。申し訳ない。

(委員) お願いに近いが、業務スマート化はとても必要なことだと思うが、人と人が接して地域に出向いて情報を得なければならないことはたくさんある。それをしないと漏れなどが出てくる。どうしても残した方がいいことや、現場や現地を見て人と話して、諏訪市というものを理解しながら業務にあたって欲しい。

(委員) 役所内の業務スマート化は当然やらなければならないが、市民目線ということをいつも忘れないようにしていただきたい。ネットでの申込でホームページを開いたときに行きつくのに苦労することがあると思う。また、例えば建設業で請負契約を結ぶと、添付書類の中に全ての納税証明を添付するが、役所内でわかることは合理化していただきたい。

(委員) 業務をゼロベースで見直して、どこに無駄があるかを見極めてやっていただくことは素晴らしい。八十二銀行でも業務の辞める削る運動をやり、長年の習慣を全部洗いだして徹底的にやり直した経緯があった。市になるとお客様が市民になってくるので市民目線は外してはいけないと思う。辞める事や民間に任せられるものは民間にといった発想でやれば、経済も回っていくので、そんな発想でお願いできればと思う。また、DX はものすごくお金がかかる事業だと思う。今後人が減ってくる中で、経費削減は必要だが、あまり予算を削らず、しっかりとしたものをつくってもらいたい。必ず数年で元はとれると思う。

(事務局) ご意見ありがとうございます。市民目線を忘れずに、ということでご提案をいただいた。現状の職員は事務をやっていて市民の方の対応が行き届かない面があるかということも反省はしている。職員がやらずに機械等ができるところは任せ、その分を電話や地域に出るということで、市民の方との目線を合わせて一緒にやっていくということが業務スマート化プロジェクトの目的でもあるため、職員にそのあたりを周知しながらやっていきたいと考えている。

—以上、質問・意見等なく、一同了承を得る—

7. その他

—質問・意見等なし—

8. 閉 会